

◎ 働き方改革で企業の事例発表会 = 東京都三鷹市がモデル事業

18/03/27 14:04 NG97



三鷹版 働き方改革モデル企業取組事例発表会 = 26日、三鷹市内

東京都三鷹市は26日夜、「働き方改革モデル企業取組事例発表会」を開いた。「ライフ・ワーク・バランス」推進と働き方改革応援プロジェクトの一環で、市内9社にモデル企業になってもらい、社会保険労務士を派遣して改革に取り組む事業を2017年度初めて実施。経営者や市民に成果を発表し、内閣府地域働き方改革支援チーム委員で市働き方改革アドバイザーの渥美由喜氏が論評を交えて講演した。

清原慶子市長は冒頭、「9社に働き方改革を模索してもらった。生の声を聴いてもらい、ハッピーライフ、ハッピーワークが実現することを願う」とあいさつ。駐輪場・駐車場を管理運営するまちづくり三鷹（従業員64人）は、拘束時間の長さや、昼当番で席を移動することで自分のパソコンが使えず業務効率が落ちることが課題と指摘。時差勤務制度を始めるほか、昼当番席から自席のパソコンにアクセスできるツールを導入したと報告した。

建設業の東京電工（同26人）は女性活用を推進。技術者確保・育成のため、技術サポート業務を担当していた女性一般職に技術職への配属を打診、了承を得た。製本加工業の井関製本（10人）も、ライフスタイルに応じたパートタイムの短時間就労を組み合わせたシフト体制を実現。子育て中の女性は1日4時間程度から働けるようにし、幼稚園から呼び出しがあった場合は「ちょっとタイム制度」で抜けられ、パートの間で融通し合うという。広告業のユメックス（320人）は育児休業者への復帰支援で在宅ワークを推奨している。



事例発表会であいさつする清原三鷹市長 = 26日、同市内

渥美氏は働き方改革について「中小企業の方が向いている。制度がなくても風土があり、人に合わせられる。いい企業は人が抜けたときカバーできるよう共有し、普段から気遣っている」と説明。「キーワードは、エースを守れ。属人化をやめ周囲の人材を育てる。そして改革をどう共有するか。社内に共有の輪を広げてほしい」と話した。

市は10年にワーク・ライフ・バランス推進宣言都市として取り組みを始め、生活と仕事の調和との観点から「ライフ・ワーク・バランス」と語順を改めた。18年度も引き続きモデル事業を行う方針で、企業を募集する。（了）